

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

**KECA ニュース =No.50=**

【巻頭言】

## 2013年、もう一つの節目

理事長 木村信幸

KECAニュースは創刊以来15年を経て50号を発行する運びとなりました。3月に「設立15周年記念誌」を発行して間がないこともあり特集号とはしていませんが、50号は直近号で述べた節目とは別のもう一つの節目でもあります。各号に先人、ご同輩のご苦勞が刻み込まれており、かつ会員間のコミュニケーション手段としての役割を果たしてきました。

48号からは編集責任者も五代目となり、紙面づくりにも報告記事に偏らない新しい工夫が試みられています。またニュースという以上、旧聞に属する記事では看板に偽りのそしりを免れません。そこで、できるだけ早く会員の皆様にお知らせしたい事項は【事務局からのお知らせ】としてメール配信することとし、既に6回配信いたしました。情報の遅れを少しでも解消しようという試みです。

コミュニケーションの大切さは今更申すまでもありません。内部、外部とも日頃十分なコミュニケーションがあれば、活動もスムーズに運ぶはずで、基本は相手の立場に立つこと。我々の活動の多くは、市民部門、事業者部門を問わず不特定の受益者がお客さまです。こちらの示す誠意も不誠意もそのまま自分に返ってきます。達成感が味わえるのはどちらか、どちらが次の活動の糧になるか、説明の必要はないと思います。

今年度、成案を得て(理事会)決定した「KECAの活動方針」も正に十分なコミュニケーションが大前提となります。その中味には、近隣の環境カウンセラー(以下EC)協(議)会との交流も含まれます。それぞれ地域に密着した活動がなされているとしても、同じEC仲間であれば共通の認識で分かり合える部分も多いはず。それをつなぐのが環境カウンセラー全国連合会(ECU:鈴木富雄理事長)ではないかと考えています。その先鞭をつけたのが2年前に始まった福島EC協会(長澤会長)との交流です。最近ではEC千葉県協議会(國廣前理事長)と情報交換する機会を得ました。東京城南EC協議会(利根川理事長)とは地域事務局がらみの情報交換が始まっています。

他方では最近EC登録者数の減少(現在4,000名強であり昨年より約500名減)が話題になっています。ECの高年齢化はあるにしても、新規登録者が少ない原因は何か、大いに関心を持ちたいものです。その上で打つ手はないか、自分達でできることはないか検討する必要があります。ECとしての個人的な活動も大切ですが、EC協(議)会、更にはその連合体であるECUの組織としての活動も大切ではないでしょうか。

さて、2013年度の活動も全体的には中間点辺りに来ているものと思います。個々の活動によってはPDCの「A」まで終わったもの、「D」の真っ最中、あるいはこれから「P」を策定するもの等、各支部における活動、委員会の活動、そして事務局が中心となる活動によっては進捗の度合いにバラつきはあると思いますが、年度末までには是非、当初の計画を全うすべく頑張ってくださいと思います。

我々ECの生き甲斐は、事業者、市民、どちらの部門であれ環境保全の活動を通して受益者の喜ぶ顔を見たり、感謝の声を聞くことではないでしょうか。それも「自ら楽しみながら」が肝要です。

健康にはくれぐれも注意しながら後半の追い込みに持てる力を出し切りましょう。



木村信幸理事長

## バリアフリーフェア2013の報告

事務局（河野健三事務局長）

9月28日（土）、29日（日）の両日、恒例のバリアフリーフェア2013が横浜ワールドポーターズ（YWP）で開催されました。YWPはハートビル法の基準を満たした障害のある方たちにも不自由なく楽しんでもらえるショッピングセンターで、6階のNPOスクエアにKECAの事務所があります。

### （1）省エネ家族 体験コーナー

今年は「省エネ」をテーマとして嶋田さん（湘南支部）の手作りによる省エネ体験模型「省エネ家族」（人のいない部屋の電気を消すと一家団らんは省エネ？）で、LED電球と白熱灯との使用電力の比較を手回し発電機で体験してもらいました。

体験したお母さんの話から、かなりLED電球が普及しているように感じた。LED電球と白熱灯との比較実験を体験すると、手回し発電機の抵抗感の違いから、「えっ、こんなに違うの！」との驚きの声が上がっていた。LED電球はかなり普及してきているのだが、使用電力にこれほどの差があるとは考えていなかったようで良い体験となったようだ。

子供たちにも、「一家団らん」が省エネになることが分かってもらえた体験コーナーでした。

### （2）早野さん（西湘支部）による「江戸東京野菜」の講演

9月29日の午後にKECAのブースにおいて、来場者を前にパワーポイントを使って講演していただきました。

江戸時代の参勤交代の折、不足する新鮮な野菜を補うために全国から野菜が持ち込まれた、との江戸時代にタイムスリップしたようなお話しに聴講者は興味深く耳を傾けていました。

KECA会員はじめ、たくさんの人たちに聞いて欲しいわかりやすい有益な内容のお話でした。

### （3）牛乳びんに関するアンケートの実施

横浜支部として活動している「牛乳びんのリユース」に関連して、牛乳びんに関するアンケートを実施いたしました。

お母さんは勿論、子供たちもみんな“びん牛乳”を知っていることが分かった。神奈川県为学校給食で出される牛乳のびん牛乳の割合が0.7%しかないのには、どのお母さんも「どうしてこんなに少ないの」との感想で、びん牛乳の方が良いのではないかと意見が多かった。



9月29日、会場担当したみなさん



LEDと白熱電球の消費電力比較実験



PPを使って講演する早野さん

### （4）会員同志の交流

9月28日には左の写真にある福田さん、嶋田、古川、下里、原千秋さんが、29日は原(洋)、樋口、早野、高橋(信)、草間、長安、水野さんが参加され、来場者へ説明・対応し交流を深めました。

また、前日の27日には、17時から原(洋)、太田、片野さん、運営委員会を終えた木村理事長、高橋(弘)、小林(嘉)両副理事長、河野事務局長が会場全体の準備を手伝った後、KECAブースの設営を行いました。

ご協力、有難うございました。

以上

## 第4回環境カウンセラー（EC）全国交流会 参加報告と 福島EC協会、EC千葉県協議会との連携

事務局長 河野健三

### 1. 第4回環境カウンセラー全国交流会の概要

去る10月12日（土）に第4回環境カウンセラー（EC）全国交流会が千葉市で開催されました。

北は福島から南は兵庫まで、17のEC協（議）会から約80名の参加があり盛大な交流会でした。今までの全国交流会は遠隔地（名古屋、福島、京都）で開催されてきたため、KECAからは環境カウンセラー全国連合会（ECU）の役員をされている方だけが参加していましたが、今回は近隣県での開催でありECUからの参加要請もありKECAから10名のメンバーが参加しました。

ECU鈴木理事長の挨拶に始まり、基調講演として千葉大学人文社会科学部 倉阪教授による「今後のエネルギー供給について」、およびEC千葉県協議会の國廣理事による「千葉での再生可能エネルギーの普及活動」の講演がありました。その後、懇親会が行われました。

### 2. 基調講演

「今後のエネルギー供給について～分散型エネルギー社会の実現に向けた課題と解決策～」要旨

様々の再生可能エネルギーの中から、環境条件と地域の文化・風土にあった再生可能エネルギーを導入し、地域分散型のエネルギー供給の必要性を説き、ドイツにおける再生可能エネルギーの地域ビジネスを支える仕組みについて説明があった。

将来世代への責任を考えたエネルギーの選択のなかで、「原子力発電は可採年数100年未満の枯渇性のウランを使用しながら、数万年に及ぶ放射性廃棄物の管理を将来世代に押し付ける技術である」とのレジュメにあるコメントは印象深かった。

### 3. 講演「千葉での再生可能エネルギーの普及活動」要旨

#### （1）袖ヶ浦市協働事業として「住宅用太陽光発電システム設置の普及活動事業」

太陽光発電システム設置の補助金を交付した300世帯に対して、ステムメーカー、発電システムの型式、最大出力等の調査を行い、今後の普及活動への支援を行う。

#### （2）大多喜町の「面白峡水力発電所の復活事業」の支援

大正から昭和にかけて、東京電力が養老川上流に設置した発電所は昭和35年に廃止されたが、小水力発電所として復活し、自然観察会等の環境教育・観光資源としても活用しようとする事業支援で、地域に密着した活動を実践していることに感銘を受けた。

### 4. 福島EC・EC千葉県協議会との連携

（1）「忘れないでふくしま」福島EC協会からの配布資料  
東日本大震災から2年6カ月を経た被災地の現状を記録した資料の配布があったが、ECの方々との情報の共有を願っており、KECA会員へは「事務局からのお知らせ（6）」で送信した。

#### （2）EC千葉県協議会のEA21普及施策

EC千葉県協議会はEA21地域事務局 千葉県環境財団と連携してEA21の普及活動を行っており、今後のKECAの取り組みにおいて参考になると思われるので今後も情報交換が必要である。



懇親会場風景

### 5. KECAの参加メンバー（敬称略）

先崎武（元ECU理事長）、今泉奉（ECU副理事長）、木村信幸（ECU理事）、西村堅一郎、福田昭三、真砂文夫、樋口藤太郎、坂崎洋雄、小林嘉博、河野健三（以上10名）



## KECA 総合研修会 I (講演とワークショップ)

エネルギー研究会 会長 加藤幸男

今年の総合研修会 I は、神奈川県重点施策の一つで黒岩知事が力を入れている「かながわスマートエネルギー構想」について、県の担当課長山田健司氏をお招きし、講演していただきました。エネルギーを専門とする会員もいて熱心な質問が多く、途中で打ち切りとしたほどでした。(事務局)

□2013年10月13日(日) 13時～17時

### 1. 基調講演 13時～14時間15分(質問を含む)

- ・講師：県 産業・エネルギー部 地域エネルギー課山田課長
- ・テーマ：「かながわスマートエネルギー構想」の推進
- ・概要：(1)わが国のエネルギー供給構造/電源構成の推移  
(2)かながわスマートエネルギー構想
  - ・3つの原則：①原子力発電に過度に頼らない、  
②環境に配慮、③地産地消の推進
  - ・3つの取組：①創エネ、②省エネ、③蓄エネ



山田健司課長の講演

### 2. 基調講演を受けてのワークショップ(各班毎)、出席30名

- ・出席者をランダムに5班(6人×4班, 5人×1班)に分けて、机を配置換えして実施(15時30分～17時まで適宜トイレ休憩)
- ・役割分担：各班コーディネータ(エネルギー研究会メンバー)、記録係、発表者各1名
- ・全体の司会進行：エネルギー研究委員会会長 加藤幸男
- ・進め方：①講演内容に関する感想・意見 <約10分>  
②自分が取り組んでいる、或いは身近な「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」事例 <約20分>  
③②に関して KECA のできる(やるべき)取組み <約60分>  
④まとめ・確認(各班毎) <約10分>  
⑤発表：1班から5班の順<約45分>

### 3. [講評]

講演内容が盛りだくさんの感があり、無理な進行となったことを反省しています。終わりに、エネルギー研究会委員長として、皆さんの貴重なご意見、提案を頂き感謝しています。各班の発表用の資料は、紙面の都合で割愛させて頂きませんが、代わりに KECA の HP に掲載させて頂きます。

エネルギー研究会を委員会にとのご意見も有りましたが、活動の実績をあげてから検討させて頂きます。また、エネルギー研究会としての今後の活動は、メンバー(10名)の方と相談の上、決めます。

今回の講演資料(県のHPから入手可)「かながわスマートエネルギー構想」③の9頁、2009年度基準で2012年度は、「省エネ」4%程度、他の県の資料でも2013年度も「省エネ」4%程度となっています。

省エネルギーのバリア(省エネルギーを妨げるもの)とポテンシャル(可能性)の検討を含め、まだ、研究する余地は十分あると考えています。

エネルギー研究会としては、(1)省エネ診断の研究・実施と、(2)EnMS(エネルギーマネジメントシステム)の研究を一对で実施していきたい。省エネ診断は、「簡易型」、「現実型」、「開発型」に分けられる。

EnMSは、ISO50001として、2011年6月15日に発行された。EnMSは、「省エネルギーを進めるPDCAの回し方」を理解する手段として活用する。



熱心な討議が続くワークショップ

# 委員会報告

**[環境管理委員会]**

委員長 小林嘉博

2013年度も既に2四半期を過ぎて真夏の酷暑が嘘であったような时候になってまいりましたが、委員・会員各位におかれましてはパワー全開でご活躍のことと拝察いたします。委員会の運営に関して雑感を記してみたいと思います。

**1. 1時間（或いは2時間）会議の実行**

今後の行動を決めるための会議か、意見や情報交換のための会議か、ストレス発散のための会議なのか等、会議を開く目的をはっきりさせた上で会議の設定をしなければならないと思います。因みに新明解国語辞典（金田一京助ら）によれば、「会議」とは、「何人かの関係者が寄り集まって、一定の題目について話し合つて決めること」となっています。

KECAは、「協議会」の名称がついているように、「関係者が寄り集まって相談する会」ですから、会議をできる限り能率よく（効率よく）運営しなければなりません。

会議の議題（題目）そのものを、決めなければならない事項の内容を想起しやすいものになるようにしたいものです。さらに会議への出席に先立って行きたいのは、論点整理を（できる限り）十分にすることであると思います。

人生に許された時間には、自ずから限界があるはずですから、会議はできる限り短時間で中身の濃いものに、会議の終わった時には満足感が残るようにしたいものです。

**2. 個人情報の保護と共有**

「個人情報」とは、「・・特定の個人を識別することができるもの（他の上方と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む）」となっていて、大変広い範囲のものとなっています。

環境保全のための活動には、専門的な知識・実務能力・経験や、過去の仕事に関する顧客又は関係者の評価（評判）などを十分に考慮した上で最適な人材を充当することが必要であると思いますが、これらの情報は個人情報にならざるを得ない側面をもっていると思います。個人情報は明けてに公開することがはばかられますし、その内容の正否適切に検証することも（少なくとも実務的には）難しいと思います。

個人情報の共有については、可能であれば、ご本人の了解がある場合に限っては、委員会内部で共有化を前向きに考えたいと思います。ポジティブ情報・ネガティブ情報を含めて。

\*\*\*\*\*

**[環境教育委員会]**

委員長 岡本 正義



委員会開催日：毎月第4月曜日 18:30～ 横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」  
 対外活動報告・計画審議・委員間の情報共有・会員への情報提供

**1. KECAニュース No.49 以降の対外活動**

**(1) 環境カウンセラー養成支援セミナー**

7月28日（日）に湘南国際村センターで開催し、市民部門2名、事業者部門1名が受講した。受講者が準備・持参した申請書、課題論文へのアドバイス等を実施した。

**(2) 神奈川県環境・エネルギー学校派遣事業**

厚木市立鳶尾小学校6年生2クラス（64名）に7月18日と9月26日の2回、出前授業を実施した。テーマは、身の回りの3R～循環型社会形成のために～であり、「野菜の買い物」、「ガラスびんの流れ」

を、実物を使った体験学習により、「3Rの工夫と循環型社会について」学んだ。



買って来たトレー入りのトマトと玉ねぎはどこがごみになるのかな？



ガラスびんの循環の流れを調べました

2. 予告

- (1) 環境教育インストラクター養成セミナーの2012、2013年受講者を対象に、フォローアップセミナーを11月24日(日)、14:00～横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」で開催します。
- (2) 環境教育インストラクター養成セミナーを来年1月25日(土)、26日(日)に開催します。  
小中学生、市民、事業者等を対象とした環境教育・環境学習の授業・指導を行いたい方、行っている方、是非受講してください。ECUの環境教育インストラクターの登録申請の資格が得られます。
- (3) 第20回記念市民環境活動報告会を来年3月1日(土)に、神奈川県環境学習リーダー会、かながわ地球環境保全推進会議およびKECAによる実行委員会主催で開催します。KECAからは、実行委員として川村、吉野、三島、片野さん(環境教育委員会委員)が参画し、企画運営にあたります。  
なお、報告会の口頭発表は公募を予定していますので、会員の積極的な応募を期待しています。

\*\*\*\*\*

[化学物質委員会]

委員長 石井員良

化学物質委員会の2013年度活動方針は、下記の2項目です。

- (1) 地域の環境リスクを減らすために、化学物質委員会のリソースを活用して、市民・事業者向けに化学物質のリスクに対応するのに役立つ情報発信を行う。
- (2) また、主として事業者を対象とした新しい活動プログラムを企画し、事業化を検討する。

現在、これらの実現に向けて動き始めた所です。

(1)の情報発信は、会員からKECAのホームページを有効に利用すべきという意見が多く、近々、マスコミ等で話題となった化学物質関連トピックスの解説を発信します。解説は、パワーポイントで作成し、話題の概要と参考文献の2～3ページ程度になる予定です。

(2)の事業者向けの活動プログラムですが、環境教育委員会の「(仮)事業者向け・環境教育インストラクター養成セミナー」開催に全面的に協力するということになりました。内容については、これからの打ち合わせになりますが、企業の実務に役立つ内容にしたいと考えています。

また、発信の方法は、まだ、決まっていませんが、「毒物・劇物の管理」についての情報発信を計画しています。



**海老名でスズメ大量死**

海老名市は8日、同市中野の畑で9月末、スズメが大量死しているのが見つかったと発表した。市農政課によると、9月30日夕、同所の農家から「畑でスズメがたくさん死んでいる」と電話があり、職員が調べたところ、約1000平方メートルの畑にスズメ約110羽が死んでいた。鳥インフルエンザの簡易検査は陰性だったが、県衛生研究所が死骸の一部を持ち帰って検査した結果、スズメの胃の中の米から、毒性の強い殺虫剤「メソミル」が検出された。

メソミルは白菜などの害虫駆除に用いられるが、米に使われることはないという。同課はメソミルの付着した米を食べたのが大量死の原因とみて、詳しく調べている。

読売新聞 2013.10.9



[環境経営委員会]

委員長 近藤勝養

当委員会は県内の中小企業の環境経営を支援すべく、2つの活動を行っています。

1. BCP（事業継続計画）の構築支援

2011年の東日本大震災では地震による直接の被害のみでなく、サプライチェーンの断絶により東北地方以外の多くの企業が大きな被害を受け、日本全国で600社以上の倒産がありました。被害の状況は企業の事前の準備により大きな差が出ました。特にBCPを構築していた企業の早期復旧が注目されました。

神奈川県でも今後、大地震や津波が想定されています。神奈川県や各自治体でも企業のBCP構築を強力に推進しています。当委員会も倒産を防止することが最大の環境活動との思想で、セミナーによる意識改革と、希望する企業への個別BCP構築支援を実施してきました。

今後も更に強力に活動していく計画です。

- 1) BCP普及セミナーの開催 本年は3月に続き9月に2回目を開催しました（右写真参照）。

2013年9月26日 フクシア（横浜駅東口）

受講者 26社 34名

講習会の内容はKECAのHPにブログを掲載しています。

- 2) 個別企業のBCP構築支援

今年度は4社の支援を実施しました。



盛況だったBCP普及セミナー  
熱心に聞き入る聴講者のみなさん

2. エコ検定受験準備講習会の開催

企業の環境経営推進にはリーダー層の幅広い環境知識が重要なので、東京商工会議所で実施しているエコピープル（環境社会検定試験（eco検定）合格者）の育成に努めています。環境の専門家としての環境カウンセラーの力を活かして、理解しやすく、かつ受験に役立つノウハウを効果的に伝えるようにしています。

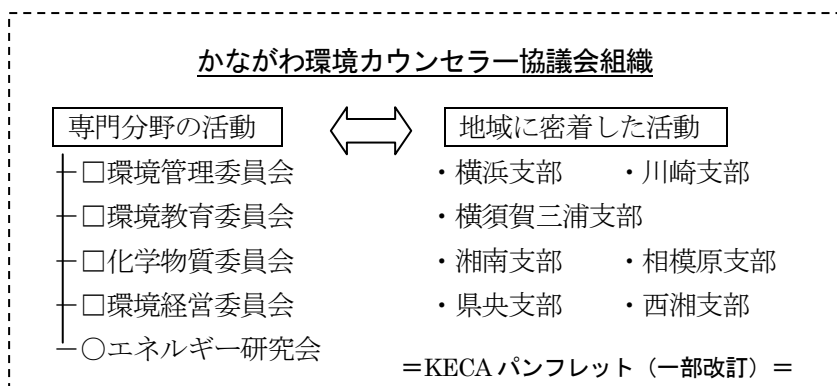
また、講習会後のフォローも充実させ、高い合格率を目指しています。

- 1) 今年6月に実施した講習会は高い合格率を達成しました。合格率：88%達成（全国平均は58%）
- 2) 10月20日 フクシア（横浜駅東口）にて2回目を開催しました。受講者 14名

熱心の受講者が多く、今回も高い合格率が期待できそうです。12月15日の試験までのフォローもしっかりやる予定です。

なお環境教育委員会では、エコピープルに対して「環境教育インストラクター養成セミナー」の受講を呼びかけています。

[注]環境経営委員会は、「BCP普及セミナー」の開催を中心に中小企業を支援する目的で、環境経営研究会（古川会長）として発足したが、今年度よりKECA4委員会の一つ・環境経営委員会として「エコ検定受験準備講習会」を活動範囲に加え、より一層充実した企業の環境経営支援を行っていくことになった。



## 支部からの報告

[横浜支部]

### 「味の素（株）川崎工場」見学報告

横浜支部 樋口藤太郎（担当）

KECA 横浜支部の自己啓発グループの2013年度計画として表記見学会を10月9日午後1時30分より午後3時50分に亘って行いました。以下に報告します。募集人員：25名、参加者は11名（当日2名欠席）

世界的調味料味の素の製造・販売の発祥地の川崎工場には、雄大な規模と案内係の方々の格式ある懇切な対応を受けました。最初の工場説明のビデオには「KECAの皆さん歓迎」という文字が出て驚きました。（申込書には、かながわ環境カウンセラー協議会と記入したのみです。）

[川崎工場の概要]

- ・創立1914（大正3）年より続く歴史ある工場
- ・面積：約330,00㎡（約10万坪、東京ドーム8個分）
- ・住所：川崎市川崎区鈴木町1-1

注：鈴木町は創業者鈴木三郎助の鈴木の事、この番地には味の素（株）のみである  
多摩川と京急大師線・鈴木町-川崎大師-東門前の3駅間沿いに挟まれた位置にある。



[川崎工場内の部門]

- ①調味料製造部門 味の素・味塩・ほんだし工場…（主見学コース）
- ②味の素製薬工場…（外観のみ）
- ③味の素・ほんだし・他の調味料レトルト食品・薬品等の製品の自動発送倉庫…（外観のみ）

\*料亭風のほんだし工場内の包装工場の見学と、かつお節削りの体験の後、「ほんだし振りかけおにぎり」の試食を体験。

\*味の素製造の歴史と環境対策等の記念館の見学

(1)創業：1908（明41）年、東京帝国大学の池田菊苗がグルタミン酸〔アミノ酸〕を主要成分とする調味料を大量の昆布から抽出する製造方法を発明し、特許が認められた。初代鈴木三郎助は知己を通じて開発中から池田博士と面談していて、この特許の実施契約を得て、早速1909（明42）年から「味の素」と命名して、合資会社鈴木製薬所で製造・販売を開始した。今日まで色々の難関を越えて拡大されてきた。

(2)製造方法の変革：需要の拡大と共に製造技術のイノベーションの推移・成功が見られる。

①昆布からの抽出法—②小麦粉中のタンパク〔グルテン〕を純塩酸での加水分解法—③糖蜜・アミノ酸合成菌発酵法（現在の方法）に至っている。（注：グルタミン酸の名称はグルテンより命名された）

\*工場内の案内は、カスタマーサービス部の大西女子により終始、懇切丁寧に誘導してもらった。

\*KECAとして予め申し込んだ質問項目（①当工場の環境対策、大気、水質、騒音、振動、廃棄物のゼロエミッション、自家発電エネルギー②全製品のカーボンフットプリントCO<sub>2</sub>量の範囲、③アミノ酸製品によるがん検出薬の効果は？）に対しては、総務・エリア管理部、安全・環境グループ部長吉田氏が①の環境問題について、都市内隣接工場として問題のないことの返答とCSR報告書を参照等の適切な説明があった。また自家発電の電気の一部を東電に売電することもある。なお②③については、本社（東京都京橋）が統括しているので説明は省略された。



(3)見学後、参加者〔11名〕にアンケートを行い9名の回答を得た（アンケート作成：太田芳雄）。

見学会に対する回答	自己啓発に関する要望
①見学の満足度 89% (8/9) ,普通 11%	*施設見学は重要、役立つことが多い。
②参加動機：・見学先に興味があった 87% ・知識習得のため 22%	*EA21 関連審査人として習得すべき案件についてのスキルアップ
③その他の意見；希望見学先 8件	*出前授業のメニュー、習得すべきスキル *見学情報は今後も他支部にも情報を流して欲しい

以上の貴重なご意見をいただきました、今後の自己研鑽の企画に参考としていきます。 (2013.10.20)

\*\*\*\*\*

**【湘南支部】**

支部長 西村 堅一郎

自然ある未来へ！ 藤沢エコエコまつり（第18回藤沢環境フェア）が2013年11月23日（土曜日・祝日）、辻堂にあります。明治市民センター・公民館・土打公園において開催されます。

KECA 湘南支部では一般展示のほか、調理室において、「キッチン実験室」という参加型の催しも行います。

開催場所は右の図の通り、辻堂駅から5分くらいのところにあります。近くに「テラスモール湘南」もありますので、ぜひ都合をつけてご参加ください。お待ちしております。



\*\*\*\*\*

**【県央支部】**

支部長（代行） 高山 進

支部活動として隔月定例会の実施、自然観察会、地域企業の見学会、及び自治体との積極的なコミュニケーションを図りながら支援活動を行っています。

活動事例として、海老名市との連携で実施している「海老名市サマースクール」の授業を紹介します。今年で3年目を迎え、小学校3年生から5年生を対象に行っています。数あるサマースクールの中でも人気があり、延べ人数で約100人が参加されました。

**【海老名市サマースクール】**

- ・テーマ『電気コツコツ作戦』
- ・実施日：7月23日（上星小学校）、25日（有鹿小学校）、26日（東柏ヶ谷小学校）

<授業の狙い>

節電の知識を話して教えるのではなく、子どもたちが行動して、体感して、自分達で節電することの必要性を感じてもらえるような授業。

<授業内容>

1. グループ討議 「電気がないと使えなくなるものをグループ討議で整理する。」
2. 演習①「電気をどのくらい使うのか測ってみよう！」。  
テレビ、電灯セット、ドライヤー、扇風機をワット計で測定する。  
演習②「家族団らんゲーム」  
手回し発電機を使って、家庭の各部屋の照明（豆電球）をつけた



電気使用量の測定

場合と、家族団らんで一部屋だけの照明をつけた場合の電気使用量の違いを感じてもらおう。  
また、LEDに切り替えた場合の違いも体感してもらおう。

演習③「冷蔵庫からの取り出しゲーム」

冷蔵庫で冷やす必要のないものを、間違いなく取り出すことを採点するゲームで、詰め過ぎないことを学んでもらう。

3. 日常生活の中で自分たちが節電できることは何か、グループ討議をし、まとめ、発表する。

<子供たちの主な節電宣言>

- \* 「エアコン」は設定温度を守り、部屋のドアを閉めて使います。
- \* 冷蔵庫にもものを入れたり取り出したら、すぐ扉を閉めるようにします。
- \* ドライヤーが多く電気を使うので、髪を良くふいて使わないようにします。
- \* テレビは多くの電気を使うので、見る時間を少なくします。



家族団らんゲーム

[総括]

「節電をテーマに“電気コツコツ作戦”と題し、グループ討議や実験を中心とした内容は、子供たちにとって、とても興味深い体験となり、節電への更なる意識付けができました。」と海老名市より好評を得ました。今後も支部の活動の柱として授業内容のレベルアップを図り、来年度以降も継続していきたいと考えています。

\*\*\*\*\*

[横須賀三浦支部]

支部長(代) 高橋 弘二

1. 環境カウンセラー養成講座

7月28日(日) 自然ふれあい楽校のサマースクールの一環として実施(環境教育委員会)

2. 市立小学校の環境学習出前授業

横須賀市環境教育指導者登録している会員(遠田、中村、高橋)で、市立小学校3、4年生を対象に「身近な水・水の循環」「横須賀で一番長い川・平作川について」のお話や、上流での「水質・水生生物調査、源流探検」の野外自然体験学習を行った。遠田さん飼育中の絶滅危惧種・トキョウサンショウウオが児童の興味をひいた。

- (1) 市立衣笠小学校3年生: 7月22日(月)、23日(火) 8時30分~12時

(2クラス46人) x 2回、平作川上流での「水質・水生生物調査、源流探検」&往復路の自然観察

- (2) 市立池上小学校4年生、総合学習「水チーム」、25名ずつ2回

□室内授業(お話): 9月18日(水)、①8:40~10:20、②10:40~12:20

□9月25日(水) 8:30~10:10、雨のため野外自然体験学習ができず、室内で「お話と水質測定実習」

□9月27日(金) 8:30~10:40、「万葉公園」で水質測定、自然観察



室内での授業風景(高橋、中村)

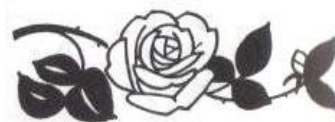


魚と水生昆虫



平作川源流部での自然体験学習

## 会員の広場



### 「ちがさきスクールエコアクション」制度の策定に参画して

湘南支部 安齋 洋太郎

茅ヶ崎市が環境基本計画（環境保全と創造の諸施策）の重点施策である「学校における環境教育の充実」に関連して設置した「学校版環境マネジメントシステム策定プロジェクト」に湘南支部から会員2名（小山、安齋）が参加し、そのプロジェクトの中心となって取組んできた経緯と策定された「ちがさきスクールエコアクション」制度の概要について紹介いたします。

茅ヶ崎市では、自ら行う施策及び事業における環境マネジメントシステム「C-EMS」を運用しているが、更に市立小中学校にも取組みを拡大するため、平成19年度から環境基本計画の協働推進団体である環境市民会議「ちがさきエコワーク」と協働で小中学校にも取組み易い独自の「学校版環境マネジメントシステム」策定のためのプロジェクトを立ち上げました。その背景には、これまで小中学校での環境への取組みは、熱心な先生の自主的指導のもとに個々に進められていたものの、指導教員の異動等により取組が停滞するなど持続することが難しい状況にあったため、その改善策としてPDCAサイクルに基づく継続可能なシステムとして制度化することになったものです。

この学校版環境マネジメントシステムは、「ちがさきスクールエコアクション」と命名し、未来を背負う小中学校児童・生徒の教育の一環として位置付け、体験的環境学習を主体にした活動により児童・生徒の環境意識を育み、環境問題に対して自主的に取組む力を育成することを目的としたものです。

「スクールエコアクションの手引」（素案）の策定に当たっては、環境省制定の「エコアクション21制度」及び先進他自治体の事例を参考にしながら、茅ヶ崎市の地域性を考慮し、学校の体制や活動に相応した取組み易いシステムとすることを主眼にして、数多くのプロジェクト検討会を重ねて参りましたが、その中で環境カウンセラーとしての知識と経験を大いに活かすことができました。

「スクールエコアクションの手引」（素案）は、Ⅰ. 制度の概要、Ⅱ. 「スクールエコアクション」ガイドライン、Ⅲ. 取組申請及び活動報告 の項から構成されており、文書・記録のひな形や取組事例等を附属して、できるだけ分かり易い内容にしました。この手引書（素案）は主管部署である市の環境部環境政策課において、茅ヶ崎市教育委員会との調整、市立小中学校長の意見聴取及び市庁内承認など種々の手続きを経て、ようやく平成22年3月正式に制定されました。初年度はモデル校での試行から始められましたが、平成23年度からは小学校19校、中学校13校すべての学校に導入され運用開始されることになりました。各学校においては、生徒会などが中心になり、節電、節水、ごみ削減活動等のほか地域や学校の特性を活かした独自の目標と計画を立て主体的に取り組まれています。

平成24年度におけるスクールエコアクション活動の成果例として、平成25年6月開催の「ちがさき環境フェア2013」において、中学校2校（赤羽根中学校、円蔵中学校）の活動発表が行われ、同時に全32校の活動報告書が会場に掲示され、広く市民に公開されて大変好評でした。

今後とも、環境カウンセラーとして、それぞれの専門・得意分野を活かしながら地域自治体の協働事業やイベント等に積極的に参画して、地域社会の環境活動普及に努めて参りたいと思います。



スクールエコアクション活動発表会風景





## “市立保育園で「エコ育」がスタート”

横須賀三浦支部 高橋 弘二

平成23年度、横須賀市の保育士研修会で「エコ育年間計画」が策定され、独自で園児の環境教育が行われていました。

一方、環境政策部が主管している「環境教育指導者派遣事業」では、環境の専門家である「環境カウンセラー」「県環境学習リーダー」、市の講習を受けた「アィクル・マイスター」が登録し、小中学校で環境学習出前授業を実施しています。

今年、環境教育指導者が園児を対象としてできる専門分野のテーマを提案し、テーマ一覧が市立保育園へ配布されました。

提案されたテーマ（プログラム）は、①身近な自然（3）、②ごみ（4）、③水（5）で、希望するプログラムがあると、保育園から市環境企画課を通じ指導者に連絡があります。あとは、「保育園ー指導者」で事前打合せ・会場下見を行い、実施計画書を作成・提出し、「エコ育」当日を迎えます。

私のテーマ「水」について、11月から3保育園で実施の予定です。対象は3歳児～5歳児、33～68人ですが、年少と年長で理解力に差があり、人数も多過ぎることから、年少（3歳児）、年長（4、5歳児）に分けて実施します。

小学校と違って、話す内容をできるだけ「絵」で表し、ホワイトボードにマグネットで貼りつけて、「水の大切さ・節水」についていっしょに楽しく「エコ育」したいと張り切っています。

また、「水」に関心を持ってもらうため、補助指導者に手伝ってもらい「水を使った遊び」を楽しむ時間も予定しています。私の初日は11月1日（金）で、今から楽しみです。

\*\*\*\*\*

### 三浦半島だより 三浦半島のセミ（6種類）の初鳴き調べ

横須賀三浦支部 中村修二郎

セミが暑い中、鳴く姿にエールを送りつつ、16年前から夏季になると「セミ鳴き日誌」を毎日書いて「鳴き始め」「鳴き終わり」をチェックしてきた。三浦半島には6種類のセミが生息する。下図はセミの種類別鳴き平均期間を示す（鳴き始め最速、鳴き終わり最終日も記載）。●初鳴き順（7/9～8/1）：ニイニイ>ヒグラシ>ミンミン>アブラ>クマ>ツクツクボウシ、●鳴き終わり順（8/13～9/30）：ニイニイ>ヒグラシ>クマ>ミンミン>アブラ>ツクツクボウシである。●鳴いている期間の長さ（26～64日）：ミンミン>ツクツク>アブラ>ニイニイ>ヒグラシ>クマゼミの順。ほんの一部だけを紹介、詳しくは問合せください。

【種類別セミ鳴き平均期間図(1997～2012)】 鳴き始め最速日、鳴き終わり最遅日

種類	6月							7月							8月							9月							10月				
	日	5	10	15	20	25	31	5	10	15	20	25	31	5	10	15	20	25	30	5	10												
ニイニイ																																	
ヒグラシ																																	
ミンミン																																	
アブラ																																	
クマ																																	
ツクツク法師																																	

#### 「エコ育」のねらい

- 地球環境を知り、自分たちでできるエコ対策に取り組む
- 水の大切さを知り、身のまわりの節水に興味を持つ
- 身のまわりの資源に興味を持ち、物を大切にすることを養う

＝「エコ育年間計画」より＝



市立保育園での「エコ育」の様子  
元気に「ハイ！」

**事務局だより**



[報告]

**2013年度 環境カウンセラー研修（関東地区）  
スタッフとして参加して**

事務局長 河野健三

環境カウンセラー全国連合会（ECU）が環境省から受託した2013年度 環境カウンセラー研修（関東地区）の1日目 10月15日（火）に、スタッフとして参加したのでその概要について報告する。

**1. 2014年度環境省重点施策の概要と環境カウンセラー制度について**

環境省関東地方環境事務所 環境対策課 平野課長より、持続可能な社会づくりとして

- ①東日本大震災からの復旧・復興、②低炭素、循環、自然共生を同時達成する社会の創造を二本柱として施策を展開するとの説明があった。

環境カウンセラー制度では専門分野の変更が行われ、現在の22分野を12分野へ集約した。専門分野は生命、自然への愛着、生態系・生物多様性、水質、大気、地質、地球温暖化、資源・エネルギー、産業、消費生活・衣食住、公害・化学物質、3Rの12分野で、旧分野にあった環境マネジメント・監査、環境計画、環境全般等はなく、その他も統合されている。

また環境カウンセラーが心掛けることとして、環境保全活動を行おうとする相手とのコミュニケーションと信頼関係の構築が重要であり、利害関係者のかけ橋になるべきとの話が印象に残った。

**2. 基調講演と専門研修**

引き続き、環境回復情報ネットの森久起氏から「環境放射能除染と放射線リスク」の講演があり、国・自治体による除染の現状、放射性物質汚染対処特措法の内容、除染活動に関する日本の知見をまとめて「除染活動情報の国際公共財化」とする提言、放射能の人体への影響・リスクに関する説明があった。

午後から専門研修として(1)循環型社会の構築、(2)温暖化防止活動、(3)持続可能な開発のための教育、(4)生物多様性保全に分かれて研修した。

EC全国交流会と同じく、ここでも千葉、武蔵野・多摩、東京城南、杉並の各EC協議会が協力して、ECUのもとに結束してEC研修を盛り立てているのが良くわかった。今回は台風の影響で2日目の16日（水）の研修が中止となったが、EC制度の更なる発展に微力ながら貢献していきたいと思う。

**平成25年度環境カウンセラー研修〔関東地区〕スケジュール**

□会場：国立オリンピック記念青少年総合センター501号室他

午前	10:00	開講式、オリエンテーション		
	10:10～	[総論及び新規登録者研修] ・環境行政の動き及び環境カウンセラー制度概要について 関東地方環境事務所 環境対策課長 平野 寛人氏		
	10:40～	[基調講演] ・放射線物質と除染 環境回復情報ネット 代表 森 久起氏		
(昼食・休憩 60分)				
午後	13:00～	専門研修 170分		
	テーマ	循環型社会の構築に係る環境カウンセラー活動	持続可能な開発のための教育に係る環境カウンセラー活動	生物多様性保全に係る環境カウンセラー活動
	コーディネーター	武蔵野・多摩 EC 協議会 堤 恵美子氏	NPO 持続可能な開発のための教育10年推進会議理事 森 良氏	栃木県 EC 協会 副理事長 渡邊 重宣氏

**[行事予定]**

**総合研修会Ⅱ**

- 日時：11月30日(土)、12月1日(日)
- 場所：奥日光・湯元温泉  
(奥日光おおるり山荘泊)
- 集合：7時50分、横浜駅西口天理ビル前
- 交通手段：おおるり観光Gバス
- 予定人員：25名(KECA 会員、または関係者)
- 内容：(1)湯の湖・泉源付近の自然観察・散策  
(2)はじめての俳句教室
- 申込締切り：11月15日(金)
- 問合せ・申込：事務局企画担当(原)

**理事会 (in 横須賀)**

- 日時：12月6日(金) 10:30~17:00
- 場所：横須賀市
- 集合：10時30分、京急汐入駅  
10時45分、JR 横須賀駅
- 内容：(1)ヴェルニー記念館、公園散策  
(2)昼食(展望レストラン)  
13:00~ (3) 軍港めぐり・乗船  
14:00~ (4) 理事会(産業交流プラザ会議室)
- ※(3)から、または(4)からの参加も可
- 担当：横須賀三浦支部(高橋)

**[会員動向]**

- ・2013年8月末時点の会員総数は127名
- ・入会者：2013.5.1~8.31の間で新規に1名  
(下記)の方の入会があった。
- ・退会者：なし

**支部別会員数**

支部名	人数	支部名	人数
横浜支部	55	相模原支部	11
川崎支部	13	県央支部	19
横三支部	6	西湘支部	11
湘南支部	12	合計	127

(2013年8月31日現在)

**[新入会員紹介]**

- 鈴木 竹二 (すずき たけじ)
- ・所属：県央支部 (厚木市)
  - ・部門：事業者部門登録(予定)
  - ・専門分野：地球温暖化、資源・エネルギー、  
公害・化学物質

- ・抱負：企業や事業者等が取り組む環境保全に関わる事業や環境保全活動、企業等が抱える問題や課題に対して、利益創出と環境保全を同時に達成することができるような指導、支援を行っていききたい。

**[編集後記]**◇KECA ニュースの発行は年3回のため主だった活動報告しかお知らせできません。ニュースといいながら3、4ヶ月前の活動報告では・・・と議論した結果、木村理事長の巻頭言にもあるように「事務局からのお知らせ」を月2回程度メール発信することにしました。◇総合研修会Ⅰでは県担当課長の基調講演内容をうけて、全参加者が「環境カウンセラーとして、KECAとしての省エネ・再生エネルギーの取組み」について活発な意見交換を行いました。有言実行、効果的取組みを期待しています。(高橋)

**[本年度環境カウンセラー更新手続き対象者]**

- ・登録証番号：1997、2000、2003、2006、2009
- ※詳細は環境省環境カウンセラー HP「更新申請手続きについて」参照

**[発行] 特定非営利活動法人**

かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

理事長：木村信幸・事務局長(広報担当)：河野健三

□ 住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6階 NPOスクエア内

□ 電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

□ E-メール：[37keca@kke.biglobe.ne.jp](mailto:37keca@kke.biglobe.ne.jp)

□ URL：<http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

**[年会費等振込先]**

ゆうちょ銀行 口座番号 00260-9-24711